

平成 29 年 5 月 17 日

北海道サッカー協会 審判委員会 各位

北海道レフェリーアカデミー第3回 議事録

報告者：板矢 智志（札幌）

<日 時> 平成 29 年 5 月 13 日（土）、5 月 14 日（日）

<場 所> 札幌市東区民センター、札幌第一高等学校、
北海道サッカー協会会議室、札幌英藍高等学校

<参加者>

レフェリーディベロップメントオフィサー : 山崎 裕彦 氏
インストラクター : 古曾部 統太郎 氏 (2 日目) 森 英樹 氏
阿部 義秀 氏 山下 浩司 氏
今川 一輔 氏 村山 尚哉 氏
審判員 : 堀 悠雅、宗像 瞭、板矢 智志、須摩 和樹
オブザーバー : 長浜 杏名 (2 日目)、山口 麗弥 (2 日目)

5 月 13 日（土）1 日目

9 : 30 集合：札幌市東区民センター

9 : 40 ビデオクリップディスカッション ポジショニング
山崎 RDO

ポジショニングは正しい判定をするためには重要である。ポジショニングは対角線式審判法や選手の邪魔にならないこと、広い視野を確保できることなどを考える必要がある。近くで判定することは、正しい判定につながるだけではなく、説得力や選手の納得につながる。競技者がフリーでボールを保持しているときと、相手競技者からのプレッシャーがあるときでもポジショニングが変わってくる。様々な状況に応じたポジショニングをとることが必要であり、時には対角線式審判法を逸脱する必要もある。適切な距離（10 ヤードが理想）を保ちながら、ボールと次の争点を良い角度で監視できるポジショニングをとり、一歩目の方向を意識することが大切である。



10 : 40 昼食・移動（札幌第一高等学校へ）

13 : 00 高円宮杯U-18 サッカーリーグ 2017 北海道札幌ブロックリーグ(1部リーグ)第4節

札幌第一高等学校 (top) - 北海道札幌東高等学校

(R 宗像 瞭 A1 須磨 和樹 A2 野崎 智成 4th 森本 恵至)

15 : 00 高円宮杯U-18 サッカーリーグ 2017 北海道札幌ブロックリーグ(1部リーグ)第4節

札幌大谷高等学校 (2nd) - 札幌新陽高等学校 (top)

(R 堀 悠雅 A1 板矢 智志 A2 森 康成 4th 斎藤 浩哉)



17 : 00 移動・夕食（北海道サッカー協会会議室へ）

18 : 30 Web 講義「メンタル」 スポーツメンタルトレーニング上級指導士 立谷 泰久 氏

審判員がパフォーマンス能力を発揮するためには、適度な緊張感が必要であり、緊張感のない時や、緊張しすぎているときにはパフォーマンスが低下する。今までで 1 番最高のパフォーマンスができた時と、できなかった時の心理状況を試合前、試合中、試合後に分けて書き出せば、次への準備や対策が立てられる。また、うまくいかないときに最



高のパフォーマンスをした時の心理状況を見れば、何がいけなかったかわかる。リラックスするときには呼吸が基本となり、腹式呼吸にプラスの暗示語とマイナスの暗示語を加えて行う。吸うときにはやる気・勇気・元気・自信を吸い込むようにプラスのものを吸い込む。吐くときには、不安、恐れ、迷い、緊張、ストレスなどを吐く息とともに吐くといった暗示呼吸という方法もある。心理的な問題や課題を解決することは、良いパフォーマンスに繋がり、トレーニングにより改善できる。

20:30 活動の振り返り 山崎RDO

21:00 1日目日程終了

5月14日(日)2日目

9:00 集合 (札幌英藍高等学校)

9:30 プラクティカルトレーニング 「ペナルティキックまでの手順」 今川 INS

- ・ペナルティエリア内での判定からペナルティキックまでの手順を行った。
- ・ボールの静止 (Ball)、キッカーの特定 (Identify)、ゴールキーパーのマネジメント (Goalkeeper)、選手のマネジメント (Player)、主審のポジション (Position) の手順 (BIGPP) が大切である。
- ・主審は再開する前に副審ともコミュニケーションを取ることが大切である。

10:00 プラクティカルトレーニング 「アドバンテージ後の懲戒」 村山 INS

- ・アドバンテージを適用後、警告するまでの手順を行った。
- ・アドバンテージを適用する場合、その場で警告となる競技者を選手、他の審判員等に知らせることが必要であり、次のアウトオブプレーの際にスムーズに警告できるようにする。
- ・警告するときは、どの競技者が、どのプレーで警告となったのかを全ての人に理解してもらうことが必要となる。



10:30 プラクティカル振り替え・着替え

11:15 試合分析

(札幌第一高等学校 (top) - 北海道札幌東高等学校)

R 自己分析→選手からの信頼感を得られるようなレフェリーではなかった。前半の早い時間帯で大きな見落としがあり、不信感を募る大きな要因であった。その後も信頼感を得られなかった原因は多々あるものの、一つ一つ整理し、まずは、ポジショニングの意識付けとして、何を見に (目的) 動くのかを自分の中で持って行かなければならない。

INS 分析→何を見てどこに動けば良いのかを頭の中で整理し、ポジショニングを決めること。どのような選手の位置関係で、どのようなことが起こりえるのか危機感をもつことで、出足の早さと、走りの速さが変わってくる。状況を整理し、何をどんな目的で見るとかを明確に判断することでよりよいポジションを取ることができる。この試合では、レフェリーサイドへの寄りが弱く、全体的に争点に対して遠い印象であった。



12:15 昼食

13:15 試合分析

札幌大谷高等学校 (2nd) - 札幌新陽高等学校 (top)

R 自己分析→動き出しを意識した点でおおむね達成することができた。競技者の動き出しを把握できた点がこの根拠である。ただ、中盤でのポジションにおいては巻き込まれることがあり、特に DF の競技者の邪魔になってしまうことがあったので、ポジションを素早く修正することを意識して行きたい。そのほかにはマネジメントが課題となった。アドバンテージ適用後の競技者に対しての処理が甘く、ファウルが減るよう努めることができていなかった点があるため、今後はマネジメントのタイミングやファウルを減らせるよう努めて行きたい。



INS 分析 →アウトオブプレー時の動き出しについて改善が必要。ポイント支持に時間をかけてすぎている。また、マネジメントについても課題がある。ファウルや警告を減らせるようなマネジメント能力を身につけて行くと良い。

14:15 審判員プレゼン「マネジメントとコントロール」 審判員

板矢→コントロールは、競技規則にのっとって判定することであり、マネジメントは選手がプレーだけに集中する環境を作ることや、臨機応変に対応することである。一試合を通して選手の感情は変わっていくため、試合の流れを考えたマネジメントも必要になる。試合をコントロールするためにはマネジメントは必要不可欠である。



堀 →ビジネス面でのコントロールは、制限的な意味を持ち、コントロールする人の方が立場が上である。マネジメントは相手を尊重し、資源やリソースを有効活用して成果を出すという意味合いがあることを説明した。サッカーにおいてはマンマネジメント、タイムマネジメント、ベンチコントロール、ゲームコントロール等があり、マネジメントは主審が試合を円滑に運営（コントロール）していくために必要な方法である。

須摩→コントロールとマネジメントには「管理」という共通の意味があり、審判団 4 人でゲームをコントロールすることが重要である。また、コントロールには他人を思うままに動かすことができるという意味があり、マネジメントには他人が困った際にサポートするという意味もある。試合中においては、選手が負傷しているときや、困っているときに手助けすることが審判員に求められる。

宗像→マネジメントは「自由」的な意味合いがあり、コントロールは「制限」的な意味合いがある。選手をマネジメントすることが多いが、コントロールすることはほとんどない。コントロールすることは制限することであり、選手のプレーの自由度を減らすことで喜びを制限することに繋がってしまう。ただし、危険なプレーを行おうとする選手には、コントロールをし、安全を守らなければならない。審判員は選手に対する使い分けが必要で、状況に応じたアプローチ方法を学ばなければならない。

15:30 マナー講座 「マナー研修」 青山夕香 氏

行動や態度一つ一つには意味がある。例えば、肩を相手に向けることは相手をシャットアウトしている態度を示す。審判員は自分から心を開いて頼りにならない。そもそも、頼りない人は、キレがなく視線が合わずに自信のなさそうな態度を示す。キレは普段の歩き方や、行動の仕方から印象づく。視線では、相手に好意を持っている人には7~10秒ほど見ることができ、得意ではない人には0.1秒ほどしか見てもらえないデータがある。審判員は得意ではない選手こそ見なければならず、選手に「見てくれている。信頼できる。」と思ってくれることが大切である。審判員は常に見られている意識を持ち、行動や態度を見直す必要がある。



17:00 振り返り、諸連絡、解散